

## 人間科学学術院 健康福祉科学科

## 河手 典彦



わが亡父は早稲田大学政治経済学部の卒業生である。父は心の底から早稲田大学を愛した人間であった。学徒出陣で出征する際に、今は姿を消してしまったグラウンド坂の安倍球場で出陣式を行ったと聞いた。私が縁あって早稲田大学の教員として赴任したのは2003年4月のことであり、父亡きあと5年が過ぎてからであった。母校の教員に倅になることを父が知ることができたならば、どのような感慨を持ったであろうか。現在、乳腺外科医として働いている私の愚息の幼少時には、毎年早稲田祭に父が連れて行き、「今日は総長に抱っこしてもらったよ」などと満面の笑みで話していたことを思い出す。赴任など夢にも思わなかった早大の校歌も、父直伝で子供の時から三番まで歌っていた。125周年の寄付の際にはとくにお問い合わせ、大隈講堂の壁に亡き父の名前を刻して頂いた。

2019年で私の医師人生は41年目を迎えたが、外科医としてのモットーは『理手仏心』である。通常は鬼手仏心とされているが、江戸時代の医師で、大阪で適塾を開き多くの門人たちを世に送り出した緒方洪庵の末裔の一人で、同じ外科医として私が敬愛して止まなかった亡き叔父が一字を変えたものである。

外科の領域も他科に同じく、専門性の集中化が著しい。餅は餅屋でそのことは優れた点も大変多いのだが、医師個々の守備範囲の縮小は否めない。その点、私が育まれた東京医科大学外科学第1講座（現呼吸器・甲状腺外科）の教室は、日本外科学会会長目前で副会長時に病没した故篠井金吾名誉教授、そのあとを襲い日本外科学会会長を務めたわが恩師故早田義博名誉教授が提示した『診断から治療まで全てに関わる医師たれ』、『内科を知らぬ外科医は不要』、『医学の基本は内科』であったため、唯切だけの外科医ではなく、各種の検査も、そして確定診断としての病理にも携わることができたことは私の医師人生の大いなる糧となっている。四半世紀以上、大学病院の医師として教育・研究・臨床に従事してきたが、とくに肺癌を主とする癌の医療については日本外科学会専門医、日本肺癌学会評議員、日本呼吸器外科学会専門医・評議員等としてとくに多くの臨床経験を積んできた。それに併せて、上記教室系にあるように、内科医としても臨床を継続しており、主な生活習慣病の診療約10万例も含めて、数多く経験してきている。

このような医師としての経験に基づいて、本学では専門ゼミはリハビリテーション医学、講義科目としては資格関連科目である人体の構造と機能及び疾病（社会福祉士、公認心理師、衛生管理者Ⅰ種：旧医学一般）及び救急医学（衛生管理者Ⅰ種）、大学院では健康管理医学ゼミ、健康管理医学特論、eスクールでは健康管理医学で講義とゼミを設けている。対象となる疾患の多くは手術を含めて自身の診療経験がある疾患であり、医学部生ではない本学の学生達の理解に、これらの医療実践に基づく正確な医学的知識が少しでも多く届いてくれることを願って日々活動している。

**人体の構造と機能及び疾病**では、人体の解剖と生理の基本的知識、ヒトの成長と発達、リハビリテーションと障害、精神疾患、感染症、アレルギー、中毒、健康の概念、難病、先天性疾患、医事法制、医療保険制度、腫瘍学総論、腫瘍学各論（肺癌、胃癌、大腸癌、乳癌）、生活習慣病（高血圧症、虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病、脂質異常症）を、**救急医学**では、救急蘇生法の基本、Vital Sign（生命兆候）とは何か、救急治療手技（CPR、AED、止血法）、運搬法、包帯法、主要な緊急検査、発熱、頭痛、痙攣、眩暈、意識障害、熱傷、鼻出血、体内異物、熱中症、凍傷などの環境異常の救急、窒息、呼吸困難、ショック、咯血、不整脈、腹痛、吐血、排尿異常、消毒法、刺咬症、外傷・骨折の救急、食中毒・ガス中毒・薬物中毒等と救急処置、大災害と救急医療を、**リハビリテーション医学専門ゼミ**では、脳卒中の臨床医学とそのリハビリテーション（各病型の診断と治療、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害、排泄障害：神経因性膀胱）、歩行障害、四肢切断、義肢・装具から開始して、脊髄損傷・二分脊椎、各種の認知症、関節リウマチ、小児の発達障害、脳性麻痺、神経・筋疾患、動物介在療法（補助犬＜盲導犬、介助犬、聴導犬＞とリハ、ファシリティードック等）、癌と生活習慣病の序論、癌と生活習慣病の臨床医学・臨床医療とリハビリテーションとして、心臓疾患（虚血性心疾患）、呼吸器疾患（COPD）、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）、とリハビリテーション、癌とリハビリテーションとして肺癌、胃癌、大腸癌、食道癌、肝臓癌、膵臓癌、乳癌、子宮癌、前立腺癌、白血病、悪性リンパ腫の臨床医学の基本、Role Playを取り入れた癌の学習と幅広く行っている。

## 研究室だより



■ゼミ夏期リハビリテーションセンター研修終了時の挨拶

現職の医学部教授である梶原直央先生のご支援を頂きながら、按分で各領域の基盤となる医療入門としての**臨床医学**を開講し、ヒポクラテスに始まる医学の歴史、医療の現状とその仕組み、医学のトピックス、現代社会と疾病として主な生活習慣病の基本、わが国の死因第一位の悪性新生物から大腸癌、胃癌、肝臓癌、膵臓癌、肺癌、乳癌、子宮癌、前立腺癌、白血病の基本的知識、リハビリテーション医療とは何かについて考える場を設けている。大学院では**健康管理医学**をテーマとして、**専門ゼミ**と**特論**を担当している。健康とは何か、健康寿命とQOL、疾病の一次予防・二次予防・三次予防、各種の臨床検査、健診・検診の意義とその実態、特定健康診査・特定保健指導などを理解した上で、生活習慣病に関しては、肥満とは何か、肥満が齎す疾患、高血圧症・心臓疾患・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症・脳卒中・肝臓疾患、その他の消化器疾患、呼吸器疾患の臨床医学と臨床医療を取り上げている。癌に関しては、癌と生活習慣、発癌とその過程、悪性腫瘍の分類、癌細胞の素顔、細胞所見、癌幹細胞とは何かなどの腫瘍学総論、次いで脳腫瘍、頭頸部腫瘍、上部消化管の腫瘍、下部消化管の腫瘍、肝腫瘍、膵臓癌、肺癌、悪性中皮腫、乳腺の腫瘍、甲状腺の腫瘍、子宮の腫瘍、卵巣の腫瘍、前立腺の腫瘍、泌尿器（腎、尿管、膀胱）の腫瘍、骨・軟部の腫瘍、皮膚の腫瘍、血液の腫瘍をより専門性の高いレベルで取り上げている。eスクールでは、健康管理医学について、講義科目と専門ゼミ（演習、卒業研究）で実施している。健康管理医学とは何か、健康管理医学における代表的な臨床検査法、腫瘍学序論、生活習慣病学序論、腫瘍（肺癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、乳癌、）、生活習慣病（高血圧症、脳血管障害、虚血性心疾患、糖尿病、脂質異常症、肺炎、閉塞性肺疾患）、健康生活とは、健康寿命とはなど、現代社会における代表的疾患に関連した課題や、アニマルセラピーも含む幅広い現代医療関連のテーマについて研究指導を行っている。

## ◆ゼミ卒業生たちの幅広い進路

私が早大に赴任した2003年当時は2年間ゼミ担当がなく、

本年度（2019年）のゼミで15期生である。医療に関連の深いゼミであるが、ゼミ卒業生たちの進路は三菱電機、HIS、明治安田生命、日本生命、ANA、JAL、長野県庁、総務省、都庁（主税局、水道局）、消防庁、児童福祉関係上場企業、住友林業、セキスイ、NHK、NEC、三井精機、高砂等々（順不同）、極めて多岐に亘っている。このうち医療関係としては、**製薬**：武田6名、MSD 2名、アステラス2名、ツムラ2名、エーザイ2名、ユニ・チャーム、ジョンソン&ジョンソン、テルモ各1名、**看護**：聖路加看護大学（現東大附属病院）、千葉大学看護学部、高崎健康福祉大学看護学科の計3名、**医学部進学**：2005年までの担当学生では山梨大学医学部、自治医大、福島県立医大、リハ医学ゼミ専門ゼミからは三重大学、東海大学、獨協医大、福岡大学、和歌山県立医大、弘前大学、鹿児島大学、杏林大学、高知大学、信州大学、帝京大学、愛知医大へ進学し、既に約半数が医師として活躍している。現在のゼミにも4年1名、ゼミ3年3名が医学部を志望して奮闘中である。



■恒例のゼミ散歩にて

## ◆その他の活動

生活習慣病と癌の臨床医学と医療、検診・健診、日本臨床細胞学会専門医、国際細胞学会指導医（FIAC）としての各種の癌細胞診断、高齢者医療などの領域で、医師としての活動を行っている。また、肺癌診療関連では、日本肺癌学会特別会員、日本呼吸器外科学会特別会員・終身指導医、日本呼吸器内視鏡学会特別会員としての推戴を受けた。



■ある年のリハ医学ゼミ納会

最後に、執筆の機会を与えて頂き、感謝申し上げます。